

「労働時間相談ダイヤル」に寄せられた相談事例

(長時間労働に関するもの)

事例1：労働者からの相談（業種：卸・小売業）

清涼飲料水の自動販売機への商品の補充作業をしている。ほとんど毎日のように1日13時間に及ぶ勤務なので、1カ月にすると120時間以上の残業をしており、家族団らんの時間が作れない。

事例2：労働者の家族からの相談（業種：警備業）

夫がシステム関連の仕事をしている。残業や休日労働が多く、長い月で1カ月150時間を超える残業や休日労働をしている。労働時間を自己申告しているが、実際の時間を申告するのは困難なため、会社は労働者の労働時間について適正に把握していない。夫の健康状態が心配。

(賃金不払残業に関するもの)

事例3：労働者からの相談（業種：卸・小売業）

スーパーで勤務している。労働時間は自己申告で管理しており、1カ月100時間を超える残業をしているが、正しく申告できない状況にあるため、残業手当が一部しか支払われていない。

事例4：労働者からの相談（業種：製造業）

工場で働いている。交替制勤務であるが、1日4～5時間の残業が慢性化している。タイムカードは、終業時間で打刻させられるので、その分の残業手当が全く支払われない。

(長時間労働・賃金不払残業に関するもの)

事例5：労働者からの相談（業種：その他の事業）

経理事務をしている。毎月決まった残業時間分の残業手当が支給されているが、ほとんどの月でそれを超えている。実際の残業時間数を申告しても、決まった残業時間数を超える分は残業として認められない。また、1カ月100時間を超える残業のある月もあった。

事例6：労働者の家族からの相談（業種：建設業）

息子は建設の現場管理や設計をしている。仕事量が多いのに労働者が少ないため、月に100時間以上の残業をしているが、残業手当が支払われない。また、休日出勤もあり、出張も多いため、息子が過労死しないかどうか心配である。